

山田満知子 フィギアースケートコーチ



伊藤みどり、浅田真央ら国際大会で活躍した多くの選手たちを輩出した世界的な名コーチ。伊藤みどりとのお出合いは伊藤が5歳のころで、「家庭環境が恵まれない子だったので、スケートでご飯を食べていけるようにしてあげたい」という思いから自宅に引き取って育てた。現在は村上佳菜子の指導にあたっている。

名古屋市出身。「堅い家」の4人きょうだいの末っ子で、好き勝手に育った。名古屋市交通局に勤務していた父のすすめで7歳からスケートを始める。選手としては国体少年の部、インターハイで優勝経験があるほか、全日本選手権やインカレで入賞するなど国内で活躍する。金城学院大学卒業後、愛知県スケーター連盟の手伝いに駆り出されているうちに「これが一生の仕事になる」と思わず(中略)軽い気持ちで「コーチの道へ進んだ」。

山田コーチは今69歳。見た目は若い。付き合っている連中が孫の年代なので若さをもっている。愛知県の名古屋がアイススケートで有名になった。伊藤みどりを育てたのが始まりだった。5歳頃に出会いそれから彼女はガムシャラに練習をした。伊藤は365日、毎日、朝から晩までリンクで遊んでいた。彼女はいつもなにかを吸収しようと言う集中力・感がいい子・・・だとわかった。小学校の4年生の時にはじめて、海外で滑り絶賛をあげた。それからが大変、重圧になった。そのころから一緒に暮らして指導することとした。

今は村上佳菜子を育てている。風呂も一緒に入っている。一日24時間、殆ど一緒。母親役・コーチ役をやっている。伊藤みどりとのお出合いがあって今の自分があると感謝している。

スケート技術の指導と同等かもしくはそれ以上に人間性や躰を教え込むことに力を入れており、伊藤みどりを輩出するまでは「お姑さんのいる家にもちゃんとやっていけるように仕込んでくれる」と評判をとっていた。また、一般的なコーチと違い、選手の親を積極的に練習に参加させ、協力する方針をとっているほか、年長の選手の用具(エッジや衣装)を年少の選手に再活用させることが特徴として取り上げられる。

1988年のカルガリーオリンピックで伊藤は滑り終わってガッツポーズをした。世界に新しい風を吹き込んだ・・・スケートは現場で見るとスピード感があり迫力がある大変魅力のあるスポーツです。

自分の指導方法は「オリンピックに勝とう！」ではなく「今日よりも明日は良く！」の気持を大切にしている。

主人が海外駐在に出ていたので自分は同行せず、日本でコーチ役に専念できた。いままで、伊藤みどり、小岩井久美子、中野友加里、浅田姉妹、村上佳菜子を育てた。

従来のフィギュアの練習では子供の父兄はリンクサイドに入れないというのが普通だったが自分の場合は違う。父兄にリンクサイドに入ってもら。家族ぐるみで応援してくれる。家族はコーチと同じ格好をして口をだしている。家族的なグループが出来ている。技術だけでなく、ひとつのファミリー、山田ファミリーになっている。選手・家族・コーチが一緒になって作り上げている。今は村上佳菜子が順調に伸びてきた。

伊藤みどりは1m40位しかなかったが、浅田真央は背もあり顔も小さくフィギアには理想的な人。みどり、真央、佳菜子の三人では外観はフワーツとしている真央が性格的には一番強い。毎日、練習。スケートだけをやっている。性格的にはみどりと間逆。佳菜子はどこにでもいる子。三人三様。

自分は人間が好き。ずうっといい生き方をさせてもらった！十分楽しませてもらった！

佳菜子は「みんなといても、いつでも妹みたいにしてるからね。大ちゃんだろうが、(安藤)美姫ちゃんだろうが(鈴木)明子ちゃんだろうが、みんなにかわいがってもらえる。美姫ちゃんには『チビ』って呼ばれてるけどね(笑)。織田君も小塚君も、なんだかんだと声を掛けてくれる。それは佳菜子のいい所かな。真央もそうなのよ。『カナおいでー』『カナ、ご飯食べに行こー』って、いつもカナカナカナ(笑)。試合の時も、佳菜子だけは真央の部屋に入れるんです。真央は佳菜子に対してはお姉ちゃんみたいな顔して、偉そうにしてる(笑)。そんなだからまあ、得な性分よね」

山田満知子 著
『素直な心が才能を伸ばす!—だれでも結果は出せる』
青春出版社、2007年。